

「……ひとを信頼しちゃ……」

……。

なんだようるさいなあ。

お母さん？ 別にご飯なんていらな……え？

……誰？

あー、親戚の……何か用？

はあ？ 何であんたにそんな指図受けなきやいけないわけ？

どこにいようが僕の勝手でしょ。ここ、僕んちだし。

部外者のあんたこそなに偉そうに。マジうざいんだけど……。うざいって言つてるの、聞こえない？ 耳ついてんの？

はあー……あーあーだるいだるい。

何なの？ 今まで僕の事なんてまったく気にかけてなかつたくせに。いいからとつとと消えてくれる？ 耳障りだから。

……、あっそ。勝手にすれば？ 僕、ヘッドホンつけるから。

何言つても無駄だから、聞こえないから、じゃーねー。

……。

……ねえ、無駄つて言つてるのになんで話しかけてくるわけ？

マジきもいって言うか、もはや怖いんだけど。

そうやつてれば僕がこのドアを開けるとでも思つてんの？ へえー。

……ばつつかじやないの？ ばーか、ばーか。きつも。きつしょ。

あんた、嫌われ者でしょ？ 絶対友達とかにうざがられてるよ。

だつて話してて分かるもん。

あのね、そやつて心配してて風にごちやごちや言われるの、僕いっちはん嫌なんだよね。何様？ って感じだしさ、

ひとの心配しててほど自分は余裕かましてるわけ？ 傲慢だなあ。

……自分の価値観を他人に押し付けるなよ。

僕じやないあんたが、僕の何を分かるつての？ ねえ？ 教えてよ。

……。……なんでさ。なんでここまで言つても引き下がらないの。

……そろそろさ、本当の理由を教えてくれないかな。

お母さんに頼まれたの？ それともお父さん？ 誰の差し金？

だつて、おかしいじやん。お兄さんが自分の意思でさ、僕を……ありえない。

分かってんだよ？ 引きこもりを無理やり引っ張り出せとかなんとか、

そういう事言われたんでしょ。知つてつし。僕、知つてつし。

……違うの？ ……ふうーん。

あんた、嘘だけはうまいね。唯一の取り柄だね。人狼とか強そう。

……あのさあ。

その「嘘じやないよ」って言葉ほど無意味な情報はないと思うんだけど。どうやつて証明するの？

お兄さん、自分の言葉を嘘じやないつて立証できるの？

そんな事は神様にだつて出来っこないんだよ。

残念だつたねー。僕はひとを信用してないんだよ。友達も、家族も。

……ともだちなんて、いなideサ……。

いや、何でもないよ。

……あ？ なに？

引きこもりの理由なんて……それがあんたに何の関係があるつての。……ねえ、無駄つて言つてるのになんで話しかけてくるわけ？

マジきもいって言うか、もはや怖いんだけど。

そうやつてれば僕がこのドアを開けるとでも思つてんの？ へえー。

……ばつつかじやないの？ ばーか、ばーか。きつも。きつしょ。

あんた、嫌われ者でしょ？ 絶対友達とかにうざがられてるよ。

だつて話してて分かるもん。

あのね、そやつて心配してて風にごちやごちや言われるの、

見てるだけで不快、触りたくない。踏んづければしつこくくついてくる。薄汚い……何の説得力もない……吐き捨てられたガムだ。

……なに？ 今度はどんな呪文をつぶやくつもり？

？ なんだよ……声が小さくて聞こえない。何が言いたいんだよ。

い……？ い……じ……め？

……いじめられて引きこもつてゐるつて、そう言いたいわけ……？

あんた、は……さ、……何のつもり？

僕を傷つけたいの？ 僕をいたぶりたいの？

ああそつか、だからそうやつて……ぼ、僕に……付きまとうんだ。

ああ、はは……はは。そう、そうなん……だ……納得いったよ……。

心配しなくて……いいよ。トドメなら、今、差されたから……あはは……。

だからさ、もう、帰つてくれないかな。お願ひだから……。

……帰れよ。……帰れツ！

……ぐすつ……。

何なんだよツ。これ以上僕を痛めつけて……どうするんだよ。

ツ……まだやさしさとかなんとかほざいてんのか！

やさしくする人間の言葉じゃないよ、あんたのそれは！

あんただつてどうせ、する側に立つての奴だ。

弱い誰かを傷つける為にツ、正当性つて暴力で優越感を得る為に！

そうだろ！

だつてあんたは……まだ、そこに……立つてんだ。

キツい問い合わせは、僕を怒らせたいだけだろ。そうやつて楽しんでんだろ！

最低だよ最悪だよ最上級にくそつたれな野郎だ！

今だつてあんたは……声も、足も、きっと表情だつて、ずっと変わらない。

ずっと……穏やかで……静かで……。

あんたのその……意味不明な執念は……その真意はどこにあるの。

本当に……僕を……心配してくれてるの？

本当に……。

……はつ。

ダメだダメだ……ひとを信頼しちゃ……。……どうせ……。

とにかく……

ふう……。

ん……えつ？ 行つちやうの？ ……あ、ああ……晩御飯……ね。

あつや、そ、そ。あーせいせいした。ほんとうざかつたなあ。

は？ 僕？ 行くわけないだろ。別にお腹なんか空いてねえから。

とにかく、もう来ないでね。

あんたの声なんか聞きたくないし、癪に障るんだよ。

……来るなよ。絶対来るなよ！ 分かつた？

はい。約束。嘘ついたら針百億本飲ませてやるからな。

じや、……ばいばい。

2.だから、ほんとに少しだけ。

……誰？ ご飯はいらなって言つて——

つて、まああんたか……。もう来るなつつただろ！？

鳥頭かつての！

チツ。舐めやがつて……。あのね、僕は約束は守る主義だから……。

針。まさかそれも忘れちゃつた？

？ なにさ。……はあ、針百億本も持つてないとか、当たり前じやん。

馬鹿なの？ ああそうか、馬鹿だつたね。

仕方ないな。じやあ今すぐ用意してあげ……あつ。

そつか、そういう事か。そうやつて僕を部屋からおびき出そうとしてんだ。

危ない危ない。策士だね、あんた……危うく引っかかるところだ。

フン。こんな時間までご苦労なこつたね。

あんた、絶対時間無駄にしてるよ。僕なんかの相手して本当もつたいない。

……暇なの？

だから、引きこもりの僕と話すしかする事がないくらい暇かつて聞いてんの。

あつ。あんた、ひよつとして……アレ？ アレなの？

言う必要ないけどさ、僕……男だよ？ 分かつてるでしょ？

……へえー、そう。そうなんだ。あんた、やっぱアレなんだね。

それなら納得だよ。どうしてそんなに必死に呼びかけてくるのか……ふふつ。

マジきつもい。軽蔑するよ。生理的にムリムリ。ほんとムリ。

まあ確かに？ 僕ってそういうひとにさ、絡まれる事が結構多いからね。

あいつらほんと……下半身に脳ミソがついてんじやないの？

ひとの事じろじろやらしい目で見やがってさあ。

からかってやつたら、みんな本気にしてやがんの。

寝ぼけてんじやない？ つて感じ。

あんたもさ、そなんでしょ？

ね♪ お・に・い・さ・ん♪

ぶはッ、あはははつ！ きもすぎつ！ 何動搖してんの？ マジひくわあ。

え、なに？ 本当にそうなの？ ねえねえ、そうなの？ うつわうつわ。

おにーいさん♪

ぶつぶつ……ちょっと笑わせないで。クエスト失敗しちゃつたじやん。

あー面白。きも面白いね、あんた。ちょっとだけ興味持つちやつたよ。

その他大勢のくさーいモブガキとかオツサンと違つて……うん、特別。

そう、特別だ。つまりそいつらより馬鹿って事！ あんた本当に馬鹿！

あはははつ。

おー面白、開けてほしいの？

ダメだよ、開けるもんか。

だつてあんた、開けたら僕の事を襲つちやうでしょ？ ふつぶつ……。

……でもね、カギはついてないんだよ、それ。

開けようと思えばいつでも出来るんだ。びっくりした？

ほら、開けていいよ？ 僕は絶対しないけど、あんたがしたいならどうぞ。

開けないの？

……へえ。あつそう。……まあ、好きにすればいいけどさ。

チツ……はあ、つまんないの。本当はもちろん施錠してありますよ。

息荒くしながら思い切り開こうとしてガチャガチャ鳴らしながら焦るサマ、見ようと思つたんだけどなあ……。

えつ。……分かつてたの？ ……そう、そうなんだ。

……え？ あ、え……？

何だよ、急に。よく分かつたね、僕が「くもくもくもいんぐ」やつてるの。

うん、最近出たソシャゲ……そだよ、無課金だよ。

親の同意がないとお金使えないし……。

え？ なんかやたら詳しくない？ え、なに、まさかあんたもやつてるの？

へえ。あ……無課金なんだ？ ……ふつ、貧乏だね。

え、ちがうのー？ ……お、よく分かつてるじやん。

そそう、自由度が売りなんだよこのソシャゲ。

無課金でどこまで頑張れるかってのが醍醐味なんだよね。

ほら、現実ってなんでもお金で押し通せばなんとかなるもんじやん？

ゲームの世界もそれって面白みのカケラもないんだよねー。

架空の世界でくらいさ……素っ裸の自分で頑張つてみようつて……

みんな思わないのかな。

他のゲームだつてそうだよ。

強キャラを使ってバカ勝ちして、まあゲームは勝ちたいもんだけね、

性能で勝つのがそんなに楽しいのかなあつて思う。

自分の技量で他人をなぎ倒す方がよっぽど……快感だよ。僕はね。

……おお、そつか。あんたもそなうなんだ。えへへ……なんかうれしい。

あつ。い、いやいや、そんなんじやなくて。

だつてずつとここにいるから……誰かに共感されるのあんまり経験なくて。

……うるつさいなあ、もうつ。しつこいんだつてば！

だから、ほんとに……少しだけ。うれしかつたんだよ……。

……あほが。

あんまり調子乗つてるとぶつとばすよ。……マジで。

いや開けないよ。ドアは開けやしない。

でもね、あんたを滅多打ちにできる方法がひとつあるんだ。

「くもくもくもいんぐ」、これ対戦プレイできるの知つてるでしょ？ アプリ起動して。ほら早く。ID 教えるからフレ申請してよ。

ほっこりこにしてやんだから……音を上げるまで寝かせないぞ。

あ？ 何だよスマホ置いてきたつて！ ほんとドンくさいなあお兄さん！

あつ違つ……あんた、ほんとドジだな。

待つてあげるから、取つてきなよ！ はよはよ！ ダツシユ！

……。

……はあ……。

……お兄さん……♪（小声）

3 報告しなくていいよバカ。

……。んにえー？ ……あー、あんたかー……。

うううるさああい……今何時だと思つて……。

まだ十時じやん……僕の活動時間は午後三時からだよ……常識でしょ。

ふあああ……。

……うわ、まぶし。こんな良い天気なのにさあ……僕とお話しに来たの？

はあ、やれやれだね、もう。まあ、あんたはアレだもんね。仕方ないなあ。

え？ ……知らないよ。毎回毎回さ、それ聞かなくてよくない？

別に餓死なんかしないし。僕、そんな貧弱じやないんですけど？

……冷蔵庫にね、僕の分がいつも入つてんの。それ食べてからへーきなの。

はー？ いやいやいや、ずっと部屋にいるわけないじやんさ。

そんなのただのひきこも……いや、引きこもりだけどね、

地縛霊じやないんだから、部屋から出る事はあるつて。

だつて、トイレどうすんのトイレ。さすがにボトラージやないよ僕。

そこまで人間捨ててないよ。ギリギリヒューマンだから。

……え？ ……そーカな。そんなにべらべら喋つてる？

あー、まあ、うん。話し相手なんて久々っていうか、

……久々とかいう次元じやないな。

喋つてるときの僕、こんな声だつたっけつてレベルかも……うん。

えつ？ ちょっと！ そんなの親に報告しなくていいよバカ！

ガキか、あんたはガキか！ 嬉しいからってそんな小さい事をさ、いちいち言いに行かなくていいっての！

はあ。あんたと話してると疲れるよまつたく。ほんとにもう。

言つとくけどね、そんなに粘つたつてドアは開けないから。

毎日通おうがどんだけ声をかけようがつ。

あんたには顔を見せるつもりないからつ。いい？

……むう……。

……あんた、ふだんは何してんの？

ほら、今はあれでしょ。休暇かなんかでうちに来てるんでしょ。

あんた何歳だっけ？ ……ほーん。当たり前だけど、年上なんだねえ。

え、な、なにその質問。そりやま、年下とか同じ年よりは……

年上の方が……うん。 ……すきだけど。（小声）

つて僕の質問に答えるよつ。いつもは何してんのつて話。

ふふ、すごいって言つてほしかつた？ はいはいすごいすごい。

ぱちぱちぱちぱち。

何だよ、文句ある？ 悔しかつたらこのドア開けてみなよ、ほらほら。

ふふつ。悔しそうな声……はああんたほんと面白いねえ。

で、どこ住んでんだっけ？ ……ふうん。 ……遠いな。（小声）

ねえねえ、スマホの番号教えてよ。 ……あ？ 何キモい事言つてんの。

だつてあんた、実家帰っちゃつたらソシャゲの対戦出来ないじやん。

あのゲーム、メッセージとか送れないし。だからいいでしょ？ ほら早く。

……。 ……はい、おつけー。登録登録、つと……あつ。

そういうえば名前も聞いてなかつた気がするね。ついでに教えて？

……あ、苗字……違うんだ？ ……へえー、割と遠縁のひとだつたんだね。

あー、名前はー、うん、カツコイイトオモウヨー。アンタニピッタリダー。

……クスクス。もお、どこまでからかい甲斐があるのさ、

悲しいピエロだなあ。

ねえ。僕のは……どう思う？ 咲雪って名前。……変じやない？

僕は嫌いなんだよ、自分の。

だつてさ、女の子みたいじやんか。生まれた日に雪が降つてたからなんとか、お母さんに聞いた事あるけど。「えつ、天候の気分でつけちゃつたの！？」

つて思つた記憶があつて……。いい迷惑だよね……。

ふえ？ ……あ……、……そ、そつか。まあ……お世辞でも嬉しいよ。

でもあんた、僕の顔おぼえてんの？ 顔によく似合つてるつて言うけど、

もう何年も顔合わせないでしょ。適当こいてんじやないの？

……そう……覚えててくれたんだ……ね……♪

……キモツ。キモキモキモツ！

そんなに僕の顔が頭から離れなかつたの？

数年前に一度会つただけだつたのに？ うつわドン引き！

僕はあんたの顔なんて一ミリたりとも覚えてなかつたよ。

なのに、うわあ、うわあ。

あんたガチでマジで本気できしょいからもう喋らない方がいいよ。

一挙手一投足のたんび株価大暴落してんじやん。完全に破綻だね、かわいそ。

……なんて、ククッ。あははつ。みたび引っかかつたねえ、だつせえの。

あははは！ リアクション芸人でも目指したらどう？

笑わすより笑われる方の芸人としてブレイクしちやうかもよ？ ふふつ。

ごめんねえ。僕、嘘つきだから。

どれが嘘で本当か分からぬでしょ？ 混乱しちやうでしょ？

これが僕、咲雪。黒崎咲雪という人間だよ。いい加減、分かつたかな？

へ？ ……。

いや、あんたの顔を忘れてたつてのは、……う、うそじやない、よ。

違うから。ほんと違うから。嘘じやないから。それだけマジだから。

だからそんな嬉しそうな声出すな！ 今絶対ニヤニヤしてるだろあんた！

やめろやめろ変な勘違いで犬みたいにはしやいでんじやねえ！ きつもい！

きつつもいから！ もう離れろ、どつか行つちまえ！ この部屋近づくな！

……えつ、あ、う、うそ、うそうそ。本当にいなくならないでいいから。

今のも嘘だから。……あれ？ うそ、で、どれがうそだつけ……？
ああああもお分からなくなつちやつたよ……。

もう、めんどくさいから今日の発言は全部嘘つて事で！ いいかな！？
えつ。い、いいんだ？ なんでそんなあつさり……んん？ 何か変だな。
なんだろ……？

④. そこにいるのは違うひと……？

……ホラー映画じやないんだからさ、こんな深夜にノックとかやめてくれる？

びっくりしちやうじやん。……そんなに僕と話すのが好きなの？ ねえ。

時計見なよ、二時だよ二時。まあ僕にとつては日常だけさ、

ちよつとは常識つてものを考えて——

ん……？ どうしたの。なんで黙つてんのあんた。ねえ、ちよつと。

あ、まさか怒つてんの……？

昼間にからかつた事、根に持つてんのかな？ あんなの軽い冗談じやん。

……お、おい、何か言つてよ。

え、……。……あ、えつと、……お、お兄さん……だよね？ ね？

ひつ！ だ、だれ！ 誰なの！？ ま、まままさかおばつおば……。

ハツ。そ、そーカ。またあれだ。あんたお得意の引っ掛け作戦でしょ。

僕を脅かしてこのドアを開けさせようつて魂胆だね。

ちよつとビビつたけど、タネが割れればどうつて事ないコケ脅しだよ。

もう効果ないよ。だから早くいつもの声聞かせてよ。

……ね、ねえ、もうネタバレしてんだよ？ つづけても意味ないよ？

だから、ほら——

ひやうつ！ ……お、おお、おにいさーん……？ なにしてんの……？

え、ええ……？ お兄さんじやないの……？

あ、ああああつ……やだつ、ど、どどどどうしよう……どうしよう。

そ、そーだ。お兄さんのスマホに電話かければいいんだつ。えとえとえと……

これだ、通話開始っ。

……、……、……、……なん不出ないんだよ。コールはするのにつ。

つていうかそこで着信音が鳴らないって事は、そこにいるのは違うひと……？

お兄さん、ほんとに部屋で寝てるのかな……？

なんだよなんだよお。そういうのが起きる家じゃないだろ、ここおつ。

やだよおおお……助けてよお……ううつ、おにいざんつ……！ 来てよおつ。

ツ！ ……また、ノックした……。

あえ？ あつ。お、お兄さん！？ だよね？

はあああああつ……よかつた……よかつたあ。

……もう、今まで何してたの！ あ……寝てた、のか。そつか。

僕からの着信で目え覚めちやつた？ ご、ごめんね。えつとその、あのね。

今すつごいなんか、世にも奇妙なあがが起きたの。やばかっただよつ。

あと一步でたぶん僕死んでた！

えつあつごめん。何言つてるか分からぬよね、あのね……。

……へ？

……うん……うん。……スマホ、サイレントモード……ほう。

……ねえ、あんた。マジでぶつ殺されたいの……？

僕が、僕がどれだけ怖い思いしたと……あんたは……。

……ああ、もう怒る気もないや。なんか、うん……安心しちやつたから。

もお。ばかばかばかばか……。……あれでしょ。

からかいすぎたって事でしょ、僕が。……ごめんなさい。これでいい？

ん……これでおあいこ。でも、一勝一敗とはいいかからね。

僕の方がたくさんたくさんお兄さんを打ち負かしてんだから。油断してるとまたやられちやうよ？ 常に覚悟しといてね。

ふふ。今日はどんな悪戯を仕掛けでやろうか、な……、……？

え……あ、……そう。お屋には帰る……んだ。

あはは……そつか。そうだよね、忙しいもんね。分かつてるよ。

……僕、もう寝るね。ほら、たまにはさ、健康的に……ね。

つて、そんな時間じゃないんだけどさ。あははは。

……おやすみ、お兄さん……。

5.最後の最後で——

……おはよ。うん、もう起きてたよ。

お兄さん、何時に出発するの。……ふうん。もうすぐじやん。

まあ、別にどうでもいいけどねー。

あーあ。変なおじさんがいなくなつてやつと静かな日々が戻つてくるよ。たのしーたのしー日常が戻つてくる。

……。

……お兄さん。

僕、学校でいじめられてるんだ。

見た目が女の子みたいで、名前もそうだし。なよなよしてて、暗くて、

それで突つかかつてくる奴らがいてね。

今は友達もいないよ。

最初からぼつちだつたわけじやないんだけど。

でもね、誰かに劣つてるのがすごくイヤで、負けず嫌いだから、

……それに、ひとの事を見下したりして、すぐに嫌われちやうの。

だからさ、ほら、お兄さんの事をからかつたりしたじやん。ああいうの、

いじめを黙認したり逆に加担したりするような先生とか、

色んなひとにやつてたら、生意氣だつてハブられたり無視されたり。

悔しくてさ、見返してやろうつて何度もあいつらを罵にハメてさ。

容姿の事でちよつかいかけてくる連中と、そうやつて作つていつた敵がね、

たくさんいるから……クラスどころか学校中に嫌われちやつて。

で、今に至るつて感じ。不登校でも誰も心配しないし、むしろ爽快かな。

お母さんもお父さんも諦めてるもん。僕はもう外に出ないんだろうなつて。

二人は怒らないんだ。ご飯も……いつも作つてくれるし……。

でも、それは優しさじやないつて勝手に思つてる。うまく言えないんだけど。

……僕、子どもが嫌い。僕より頭が悪い奴はみんな嫌い。

みんな僕の苦しみも何も理解してくれない。いや、理解できないんだよ。

そういう考えはあいつらの頭の巡りの外なんだ。……馬鹿だから。

……でもさ。僕が見てきた世界はまだ学校だけだけど。

この世は、そういう人間の方が生きてて楽しいし、

皆から頼られる……言うならさ、「有能な奴」なんでしょう……？

お兄さんは僕よりたくさん生きてるから分かるでしょ？ 知つてんでしょ？

僕……お兄さんが好き。大好き。

もう帰っちゃうなんて嫌だ。嫌だよ。ずっとここにいてほしいよ。

両親にさえ見捨てられた僕を……説得してくれて、嬉しかった。

今だつて、そこに立つてる……。僕の為に……立つてる。

どうして……？

こんなに話しても、お兄さんの事がまったく分からんんだよ……。

優しくて、怖くて、慰めも怒りもくれるの、どうしてなの……？

ぐすつ……ひう……。もお、お兄さん……おれは……男だよ……？

魅力もない、才能も……可愛げも何もない、

男にも女にも見える中途半端な……出来損ないのクズ野郎だよ……。

ううつ……好き、好きいつ。お兄さん好きつ。好き好き好きつ……。

また、叱つてください……。咲雪の事、思いきり叱つて……お願い。

……ああ……。

ん……その優しい怒りが、僕、大好き。

全力を向けてくれるのが分かるから。

ドア一枚隔てたつて、それが伝わってくるから……。

ふふつ。誰だつてさ、自分の生き方を否定されるのはイヤだらうけど、

大好きなひとが心からかけてくれる言葉だつたら……変わろうつて、思える。

すぐじや無理かもしれないけど、でも少し……少しずつなら、

きっと変われるよね。遅すぎるなんて事はないよね。

……うん♪ ありがとう、お兄さん……♪

もう、行っちゃうの？
また来てね？ 絶対来てね？

そうだ、こんど電話していいかな。迷惑じゃない？

そつか……よかつた♪

えへへ……遠くにいても、お兄さんの声が聴けるなんて最高ハッピーだね♪

この数日間、本当に……楽しかった。とってもとっても……楽しかったよ。

……じゃあ、また、ね……。

お兄さんっ！

……。

……べつ。最後の最後で、負けちゃつた♪

お兄さん……♪ 大好き……♪

(終)